

## 和牛の飼育技術向上に向けて

当JAは、11月4日に養父市で開催の「第103回兵庫県畜産共進会」に先立ち、9月に管内畜産農家を巡回して、出品候補の但馬牛を審査しました。

例年は、但馬牛の飼育管理技術の向上と振興、発展を目的に、「西播磨和牛合同畜産共進会」を9月に開催し、種牛と肉牛、子牛を計30頭ほど審査していました。しかし、コロナ禍の影響により、共進会は昨年、今年と中止となり、担当者による巡回審査に切り替えました。

9月10日に種牛、同24日に肉牛の巡回審査を実施。肉牛の部では、兵庫県農林技術総合センターの審査員とJA担当者が、姫路市や宍粟市、佐用町など西播磨地域の肥育農家6件を訪問し、但馬牛としての資質や品位、発育状況などを審査し、飼養管理について生産者と意見を交わしました。

当JAの畜産事業は今年度、約11億円を受託販売品として取り扱う計画で、今後も預託事業などの各種補助事業を活用し、繁殖和牛の増頭や肥育農家の支援に取り組みます。

なお、西播磨地域の生産者が飼育し、肉の格付けが4等級以上の黒毛和牛を「姫路和牛」というブランドで販売し、姫路和牛のうち、但馬牛を<sup>もとうし</sup>素牛とするものは「PREMIUM姫路和牛」と称されます。姫路和牛は当JA直売所の旬彩蔵飾磨・書写・福崎で販売していますので、是非ご賞味ください。



## [ 農作業ひとくちメモ ]

### 対抗植物の利用で線虫対策を

植物に寄生すると、根にこぶを作ったり腐らせたりするなどして生育を阻害する線虫(ネマトーダ)は、土中に生息し、種類もさまざまです。

対策のひとつとして、病害虫を防ぐ効果のある植物(対抗植物)を利用することが挙げられます。マリーゴールドはサツマイモネコブセンチュウに、エンバクはキタネグサレセンチュウに効果があるなど、対抗植物によって対象線虫が決まっています。対抗植物を輪作することで被害を抑えられるので、3年に1回くらいのペースで作付けしましょう。また、ラッカセイやイチゴを前作にすると、サツマイモネコブセンチュウの密度が低下することから、輪作体系を導入するのも効果があります。

